

---

## 巻頭言

---



人間看護学部 学部長

あま さ きょう こ  
甘 佐 京 子

三十年間という時を刻んできた平成が幕を閉じようとしている。人間看護学部は、正に折り返し地点となる平成15年4月に、新たな学部として滋賀県立大学に誕生した。本誌「人間看護学研究」の第1号はその年度末にあたる平成16年3月に発刊されている。その後、年1回の発刊を基本としながら第16号まで学術雑誌としての歴史を積み重ねてきた。

私たち研究者が取り組む新たな研究を支えるものとして、先人が積み重ねてきた様々な先行研究が存在する。先行研究を紐解くことで、私たちは次に進むべき新たな地図を手に入れたり、切り開くための装備を想定し準備したりすることが可能となる。「人間看護学研究」に発表されてきた数々の研究論文も、発表時の新たな知見から叡知における歴史の一部となり、新たな研究の礎となっていることだろう。

本誌第17号は、平成に発刊される最後の「人間看護学研究」となる。平成は数ある日本の年号の中で唯一戦争が無かった時代である。しかし、国外ではテロをはじめとする紛争や争いは絶えない。色鮮やかなデザイン性の高い食べ物がSNSで取り上げられる中、飢餓状態の子ども達が存在することも事実である。傲慢なまでに自然を破壊する一方で、非常な自然災害に驚愕することも少なくない。地球という一つの星、日本という一つの国の中で、全く異なる日常が展開されているという現状はやむを得ない。しかし、私たち人類が研究に取り組むことへの最終目的はやはり「人類の幸福」のためのはずである。そのことを今一度私たちは胸に刻み込む必要があるのかもしれない。

私たちが取り組む研究のひとつひとつが、やがては人々の幸福や安寧につながることを切に願いつつ、来たるべき新たな時代を迎えたいと思う。